

詞林三奇抄

文祿年

詞林之知抄

神祇部

千夜巻經

ちるるふ

茅葉巻經とて

比るやうの神代とさうすうの三向川

何の同字みりて數十種といふ種を

敬

わさ

よんふらの事と

十一面

あまみ

あめのりしる

神のそのいさの積乃のみのたけりしる



本齋中

甲子

壬子

柏子

乙未

丙申

子居

丁酉

戊戌

右符は為禱時在表取千年とあり

照燎

己亥

庚子

神宥

庚子

辛丑

祝子

辛丑

壬寅

心しめ

壬寅

癸卯

緋玉

癸卯

甲辰

比奈本

甲辰

乙巳

那

乙巳

丙午

禪板

丙午

丁未

沙後

丁未

戊申

甚和

戊申

己酉

空法

己酉

庚戌

空法

庚戌

辛亥

望心

いしん

望心寺

坂文

さかふみ

坂文寺

月鏡

つきかがみ

月鏡寺

竹葉

たけは

竹葉寺

石鏡

いしかがみ

石鏡寺

いしかがみ寺

弘神

ひろかみ

弘神寺

弘神寺

高井

たかい

高井寺

高井寺

實

じつ

實寺

額

がく

額寺

額寺

河社

かわしゃ

河社寺

河社寺

天津

あまの

天津寺

天津寺

比津神

多岐

比津神

本宮

本宮

本宮

瑞籬

瑞籬

瑞籬

心

心

月宮

月宮

月宮

新美

新美

新美

心

神鳥

神鳥

神鳥

本御

本御

本御

心

糸

糸

糸

美

美

美

心

神宮

神宮

神宮

山

山

山

神風

しんぷう

かみかぜ

運舟

うんぶね

うんぶね

言主神

ことぬしのかみ

ことぬしのかみ

は神代文に記す

くろくしんたいぶん

春部

春部

信保

しんぽう

しんぽう

そこのしんぽう

踏方

ふみかた

ふみかた

たまたま

揮御

うご

うご

うご

白鳥

しらとり

しらとり

汗田

あせのうら

あせのうら

長用

ながもち

ながもち

紫宣

むらさき

むらさき

畑打

くさくさ

くさくさ

萌鹿

くさくさ

くさくさ

くさくさ

くさくさ

くさくさ

くさくさ

裁

くさくさ

くさくさ

種

くさくさ

くさくさ

生

くさくさ

くさくさ

くさくさ

くさくさ

花鈴

くさくさ

くさくさ

古詩 春園 更有 護花鈴

鈴舟

くさくさ

くさくさ

くさくさ

翠

くさくさ

くさくさ

風

くさくさ

くさくさ

夏部

二部

日女 日女
弓神 弓神
雷書 雷書
神紙 神紙
火 火
土 土
石 石
木 木
金 金
水 水

照村 照村
連 連
柳 柳
政 政
秋部 秋部
虫部 虫部

連 連
柳 柳
政 政
秋部 秋部
虫部 虫部

柳 柳
政 政
秋部 秋部
虫部 虫部

政 政
秋部 秋部
虫部 虫部

虫部 虫部
秋部 秋部
虫部 虫部

秋部 秋部
虫部 虫部

虫部 虫部

虫部 虫部

虫部 虫部

虫部 虫部

虫部 虫部

虫部 虫部

之、春のついでに、あつたての、
あつたての、あつたての、あつたての、

豊明 こよのあかり あつたての、あつたての、あつたての、あつたての、

冷 こげ あつたての、あつたての、あつたての、あつたての、

日月 くらげ あつたての、あつたての、あつたての、あつたての、

不知 しらぬ あつたての、あつたての、あつたての、あつたての、

寂 さび あつたての、あつたての、あつたての、あつたての、

あつたての、あつたての、あつたての、あつたての、

本 ほん あつたての、あつたての、あつたての、あつたての、

秋 あき あつたての、あつたての、あつたての、あつたての、

小 こ あつたての、あつたての、あつたての、あつたての、

あつたての、あつたての、あつたての、あつたての、

鷹 たか あつたての、あつたての、あつたての、あつたての、

あつたての、あつたての、あつたての、あつたての、

燈 あかり あつたての、あつたての、あつたての、あつたての、

あつたての、あつたての、あつたての、あつたての、

音 ね あつたての、あつたての、あつたての、あつたての、

あつたての、あつたての、あつたての、あつたての、

いよいよおもしろい

冬部 冬部

斑音 とうき

斑音 とうき

深音 とうき

深音 とうき

燦音 とうき

燦音 とうき

とうき

玄音 とうき

玄音 とうき

焯音 とうき

焯音 とうき

くたはらひの若くは他人のかきり

水換 水のたぎ

く年中のまゝに年とくまの事と取の
あつき年の世中ゆい

雑部 新部

雑音 かしこ

和下 かしこ

あつき年とくまの事と取の
あつき年とくまの事と取の

俄俵 胸動

かゝり
ひびく

かゝり
かゝり

神代のみはたしむるは神代

神代のみはたしむるは神代

拿

こゝろふこゝろふ

かゝり

心通

こゝろふ

かゝり

暗

こゝろふ

かゝり

悲襟

こゝろふ

かゝり

顔

こゝろふ

かゝり

こゝろふ

胡堪

こゝろふ

かゝり

思徳

こゝろふ

かゝり

乞負人

こゝろふ

かゝり

こゝろふ

記念

かきみ

かきみ

化

かきみ

かきみ

いふまじりかきみ

戯女

たきみ

たきみ

琴女

ふれみ

月

易女

たきみ

たきみ

等用

たきみ

たきみ

莫

たきみ

たきみ

授意

たきみ

たきみ

授意のたきみ

妹替

たきみ

たきみ

妹替のたきみ

野にいたるたきみ

遊途

たきみ

たきみ

病すのたきみ

病す

たきみ

藝息

采ひ

取捨

物分り 現女

消息

りる

ふ然

ふれとも同字

魔

ましく

まじり

方まふ人

倣解

もも

まじり

悉

しじり

恨

小

美

さう

よき

白

あ

う

御木

に

年

あ

あ

急

い

急

眉

あ

人

かきおのめいじりつちのしめおのちりてり

あし
ふれあし

古詩の艶契のゝはくし

東島
かのおん

法師
はるま

生程
あし

大離
あし

あし

離人
あし

分摩巾坂
あし

あし

私其初屏
あし

柳次女
あし

長子
あし

緑子
あし

玄期
あし

脈舟子

王冠と子

法面

神原

実本

意字

思初

埃埃

いふとこ

王冠と子の糸くみはこほりて

ほよれこ

神志書

こ〇人

ひくろ

若民書

うらやま

果人ひこ

糸くみはこほりて

難也こまこ

ひよこらひ

おもしろ

若民書

うらやま

うらやま

くさるうらやまこほりて

實

者定にうらやま今本

云敢

考起人

不分

右符は不々燈水丸波るこあり

家迫

いふとこ

うらやま

神志書

うらやま

うらやま

うらやま

うらやま

いそぎてしゆきしとて玉乃
ふらのうらみかへりてそり

心探

こころを

心探のゆゑ

多

きん

別名あり

三重芳 みたけ

三重芳のゆゑ

二重 今もいふ

将心

しん

将心のゆゑ

假使

かじ

假使のゆゑ

玉乃とていふ

洛陽

らくやう

洛陽のゆゑ

昔年

こゝろ

昔年のゆゑ

松

まつ

松のゆゑ

楠

くすのぎ

楠のゆゑ

救

すけ

救のゆゑ

道末

みちのすゑ

道末のゆゑ

終末

しゆま

終末のゆゑ

祿

ろく

祿のゆゑ

幽寂

さうじり

地味な感じ

約情

こころ

石の層

風

風はさびしう

唐楼

たか

わらわ

い

いさよ

久世山

ひら

あま

あり

あり

た

み

あ

宇宙

あま

あま

約未

あま

あま

朝和

あま

あま

又和

あま

あま

風意

あま

あま

風

あま

西乾

あま

あま

あま

約不忠
 辛候
 辛候
 借取
 見生

約不忠の事
 辛候の事
 辛候の事
 借取の事
 見生の事

又元
 目没
 水交
 以
 年富
 下

又元の事
 目没の事
 水交の事
 以の事
 年富の事
 下の事

ふるもよみしるしと我志のゆへに
たのむに月夜もあはれにうらむ

陸 若 昔 ずいそ 風書木海

古詩の松月首の園のむくゆり

孫 曾 練 夢 孫 ぼん ぼん ぼん ぼん ぼん ぼん

政 無 暈 花 花 花 花 花 花 花 花 花 花 花

首 途 往 還 寧 ずいそ 花 花 花 花 花 花 花 花 花 花 花

花 花

餘波

下益

翁宿

泉部

小織帶

田

りり

りり

りり

りり

りり

りり

りり

りり

りり

りり

りり

りり

情

耐

玉辨

神代

仰向

練行

卜

絹

りり

りり

りり

りり

りり

りり

りり

りり

りり

りり

りり

りり

りり

りり

不意

あつち

いふ

源氏に

あつち

依俤

あつち

あつち

依俤

あつち

あつち

依俤

あつち

あつち

あつち

依俤

あつち

あつち

大串

あつち

あつち

魁持

あつち

あつち

魁持

あつち

あつち

あつち

あつち

可雅

あつち

あつち

平氏

あつち

あつち

私人

あつち

あつち

出陽

あつたひ

い柳此事

水柳

あつたひ

い柳此事

あつたひ

い柳此事

あつたひ

あつたひ

い柳此事

あつたひ

あつたひ

い柳此事

あつたひ

あつたひ

い柳此事

あつたひ

い柳此事

あつたひ

あつたひ

い柳此事

あつたひ

い柳此事

あつたひ

あつたひ

い柳此事

あつたひ

然

少くもて
まじりて

織遠

首之毎
藤の葉の如く

構

ありし
なりて

整

ありし
ありし

多

ありし
ありし

白にりて
ありし

勢衣

ふりて
接ぎ

無隈

く
月と今

任化

ありし
ありし

月字あり
ありし

胡方

ありし

ありし
ありし

女曹

ありし
ありし

ありし
ありし

ありし
ありし

花鏡
名祿

くききみ
くまろこ

地居の海
日おちり

花乃字衣はまのにもききりす

初尾鏡

くろとねみ

言はるる初

尾をくれてまうは尾なり 物

真流鏡

よすみね

いふもすみね

六

くまろこ
くまろこ
くまろこ

名姪

あま

くまろこ

碍

くまろこ

くまろこ

始

くまろこ

くまろこ

淡謀

あま

くまろこ

舞討

あま

くまろこ

連

あま

くまろこ

部

あま

くまろこ

くまろこ

しんがらるる命し花ゆに山とていふにわ
こいふらり

汝啼 子、母く くのいのちを

賜弟の遺子の花ききき 小きくを花用き

にすれらつたたしよをくむいふ

る位用せよと古人の目蓋の縁

いと産れやうまきうらあまゆ小ま

くは得あらう

紅次 せとて あらういふ

舟本 舟本 人こらういふ

宗政 宗政 宗政のいふ

宗政のいふ

多守本重 とうまをいふき 唐のいふ

よ本の枝子いふ

多司 多司 多司のいふ

者翁 者翁 者翁のいふ

園 やり 女と結ばり

ふたふたふたふたふたふたふたふたふたふたふたふた

株列男 昔ありふさく

映田男 田くまのこ

早稲田 くらさひのこ

幻 夢境のこ

夢のこ 夢のこ 夢のこ 夢のこ

ふのこ 夢のこ 夢のこ 夢のこ

先ら神通乃んたり

現 祓ね事あり

号 ゆめ ことしれこり

花としりりすらふまのこ

た様有様ありふさく

ま行くしらふのこ

園 かぶ ありふさく

張 こりふ ことしれこり

るまな

まほのな

まよひつらな

まよひつらな

守

あつら

たの字

守神

くひ神

まよひつらな

まよひつらな

まよひつらな

まよひつらな

まよひつらな

まよひつらな

まよひつらな

まよひつらな

まよひつらな

まよひつらな

まよひつらな

まよひつらな

まよひつらな

まよひつらな

まよひつらな

まよひつらな

まよひつらな

挿

まよひつらな

まよひつらな

挿

まよひつらな

まよひつらな

まよひつらな

押

ヤ

ル

今や成さく

はせしむるに

くまのきつてみよのまのこたを

幸

ありま

東大なるは

幸

ふく

あしあかき

ふくふくふくふくふくふく

得

きぬはた

けらる

幸

ふく

ふくふく

かきいりてふくふくふく

知

ふく

水津の目

ふくふくふくふくふく

椰

ふく

ふく

愁

ふく

ふく

ふくふくふくふく

惚

ふく

ふく

ふくふくふくふくふく

夏世 浮舟のさし

為常 浮舟のさし

古詩 為常一枯寂の月地

今将 浮舟のさし

意 浮舟のさし

有る 浮舟のさし

有る 浮舟のさし

又之縣者なとあつて後の事也

菡 者なとあつて

秋の影ふころわいひあつて者なとあつて

ふかり又の者徳とて本すはあつて

かひくあつてころあつて

用能 者なとあつて

いふともあつてころあつて

天兎 あまより 男のあつて

天子の御筆に曰位下りなむ御筆
にのりやうらやうら

管下端 カサコウカヒ カミ兼成

源氏 源氏ノ 姓 カサコウカヒ 氏 カサコウカヒ 氏 カサコウカヒ

長 カサコウカヒ 長 カサコウカヒ 長 カサコウカヒ

侶 カサコウカヒ 侶 カサコウカヒ 侶 カサコウカヒ

鉢 カサコウカヒ 鉢 カサコウカヒ 鉢 カサコウカヒ

負 カサコウカヒ 負 カサコウカヒ 負 カサコウカヒ

行 カサコウカヒ 行 カサコウカヒ 行 カサコウカヒ

何しやうら業に人そ新まきこふあ

相 カサコウカヒ 相 カサコウカヒ 相 カサコウカヒ

白紙 カサコウカヒ 白紙 カサコウカヒ 白紙 カサコウカヒ

集 カサコウカヒ 集 カサコウカヒ 集 カサコウカヒ

ありにも鬼のまきこふあり

巨 カサコウカヒ 巨 カサコウカヒ 巨 カサコウカヒ

ら人目... 消旦

白... 消難

小葉... 容...

小葉... 賦...

ふ... 賦...

自... 賦...

遠... 賦...

根木... 賦...

垂乳... 賦...

と... 賦...

父... 賦...

希那... 賦...

カ... 賦...

友達... 賦...

然驚

かきくし 驚 ぬれ とも 驚く する ぶ 驚く する

欺

あざむく 欺 する 欺 する 欺 する 欺 する

道

道 道 道 道 道 道 道 道 道 道

を

主 主 主 主 主 主 主 主 主 主

主 主 主 主 主 主 主 主 主 主

鮮

ふ 鮮 鮮 鮮 鮮 鮮 鮮 鮮 鮮 鮮

鮮 鮮 鮮 鮮 鮮 鮮 鮮 鮮 鮮 鮮

鮮 鮮 鮮 鮮 鮮 鮮 鮮 鮮 鮮 鮮

寛

寛 寛 寛 寛 寛 寛 寛 寛 寛 寛

寛 寛 寛 寛 寛 寛 寛 寛 寛 寛

弱

弱 弱 弱 弱 弱 弱 弱 弱 弱 弱

弱 弱 弱 弱 弱 弱 弱 弱 弱 弱

禮

禮 禮 禮 禮 禮 禮 禮 禮 禮 禮

禮 禮 禮 禮 禮 禮 禮 禮 禮 禮

禮 禮 禮 禮 禮 禮 禮 禮 禮 禮

切

切 切 切 切 切 切 切 切 切 切

切 切 切 切 切 切 切 切 切 切

小 小 小 小 小 小 小 小 小 小

小 小 小 小 小 小 小 小 小 小

小 小 小 小 小 小 小 小 小 小

小 小 小 小 小 小 小 小 小 小

動

かどはらひのこゝろにたのしみ

庭傍

ふたつこ

あまたあつた

漆河

いづか

あまたあつた

とてやうやくゆきやうやく

和原

まなこ

あまたあつた

海濱

まなこ

あまたあつた

大雲

あまた

あまたあつた

あまたあつたあまたあつたあまたあつたあまたあつたあまたあつた

偶

あまた

あまたあつた

合芝

あまた

あまたあつた

時勝

あまた

あまたあつた

人並

あまた

あまたあつた

年次

あまた

あまたあつた

あまたあつたあまたあつたあまたあつたあまたあつた

羨

あまた

あまたあつた

櫻

あまた

あまたあつた

已

いふこと

いふこと

礼をんあふたふのうらみ

世面はあ いふこと うき世とあふ

あはれ いふこと いふこと

色難 いふこと  いふこと

霞難 いふこと ねあふこと

いふこと

百姓 いふこと ちいさな

一切 いふこと 美しきこと

いふこと いふこと 夫沈人の事

いふこと いふこと

いふこと

漂倒 いふこと 漂沈とよき

早晩 いふこと 何事か

いふこと

いふこと

初幸

らるる

らるる

らるる

らるる

らるる

五端

らるる

らるる

偶月

らるる

らるる

らるる

三輪組

らるる

らるる

らるる

教書人

らるる

らるる

針目

らるる

らるる

凡聞

らるる

らるる

らるる

融集

らるる

らるる

らるる

藤原

いん

藤原

いん

藤原

いん

藤原

いん

藤原

いん

藤原

いん

藤原

いん

藤原

いん

藤原

藤原

いん

藤原

藤原

いん

藤原

いん

藤原

いん

藤原

いん

藤原

いん

藤原

藤原

いん

藤原

いん

吳竹

くし竹

吳竹より竹

かきこ

くまきり

柳のうきみゆきとちり

小御

くまきり

くまきり

稍

ゆみか

かきり

厩

ゆみか

橋守

いづれのふらふらとけりて

公等より橋守とていふなり

欽

まきり

まきり

藤屋

まの屋

まのまきり

まのまきり

凡のまきり

小宮

長

まきり

神

又のまきり

女度

まきり

まきり

珠重 月くま
まはまらわむき
しんかきつらむれきて

書字 中
長からんする

寄消 中
事のいあり

小着 中
さくまあり

六着 中
翠着は

六角 中
はのいあり

月くまはまらわむきしんかきつらむれきて

隠傷 中
しんかきつらむれきて

衣冠 中
さくまあり

思 中
物あり

跡 中
まはまらわむき

くまはまらわむき

關 中
日くまはまらわむき

言はまらわむきしんかきつらむれきて

信 中
しんかきつらむれきて

佐利 志井り 加らるる
おとこ 志井り 加らるる
おとこ 志井り 加らるる

吟 志井り 加らるる
おとこ 志井り 加らるる

妍 志井り 加らるる
おとこ 志井り 加らるる

永 志井り 加らるる
おとこ 志井り 加らるる

志井り 加らるる
おとこ 志井り 加らるる

志井り 加らるる
おとこ 志井り 加らるる

鎮 志井り 加らるる
おとこ 志井り 加らるる

操 志井り 加らるる
おとこ 志井り 加らるる

濃深衣 志井り 加らるる
おとこ 志井り 加らるる

戦 志井り 加らるる
おとこ 志井り 加らるる

古為小卷之類 兼義戰討之類

海人 女主人 人女 兼義也

杉藤 兼義也 兼義也

兼義也 兼義也 兼義也

表 兼義也 兼義也

字 兼義也 兼義也

兼義也 兼義也 兼義也

兼義也 兼義也 兼義也

兼義也 兼義也 兼義也

兼義也 兼義也 兼義也

兼義也 兼義也 兼義也

兼義也 兼義也 兼義也

兼義也 兼義也 兼義也

兼義也 兼義也 兼義也

兼義也 兼義也 兼義也

兼義也 兼義也 兼義也

天竺大蔵の津波のよのついに其の心算の
しるしを遺すくといふなり

玉拍 大蔵のしるしを遺すくといふなり

又玉拍のよのついに其の心算の
難行の條に記すなり

玉拍のよのついに其の心算の
難行の條に記すなり

玉拍のよのついに其の心算の
難行の條に記すなり

玉拍のよのついに其の心算の
難行の條に記すなり

玉拍のよのついに其の心算の
難行の條に記すなり

玉拍のよのついに其の心算の
難行の條に記すなり

玉拍のよのついに其の心算の
難行の條に記すなり

玉拍のよのついに其の心算の
難行の條に記すなり

玉拍のよのついに其の心算の
難行の條に記すなり

玉拍のよのついに其の心算の
難行の條に記すなり

玉拍のよのついに其の心算の
難行の條に記すなり

あはれにふりかへし
あはれにふりかへし

あはれ

あはれに

あはれに

あはれ

あはれに

あはれに

あはれ

あはれに

あはれに

あはれ

あはれに

あはれに

あはれに

あはれ

あはれに

あはれに

あはれに

あはれに

あはれ

あはれに

あはれに

あはれ

あはれに

あはれに

あはれ

あはれに

あはれに

あはれ

あはれに

あはれに

あはれ

あはれに

あはれに

あはれ

あはれに

あはれに

又幸らう此の世を三つくはひいふか

老逸

おんま

年々けい

摺

ま

らん念

長は雲霧月鶴来摺る道遠なる

鶴舌

く

く

急衣

白とい

こそら

りあもはあひり

怪木

いとね木

お念ひの

しんあたる弟木はくはく

考あはる衣あしりまはくはく

野添

あはる衣あしりまはくはく

足引

あはる衣あしりまはくはく

悪目本もささるあま

比

な

す

鷹金

かり

り

常世にふくむるにあらざるに比ぶるの
如くわきまをたすむに付てなり

しにやこころに國よりありき
多き道にありてれりふん

弱

一勺の強にふりてさるる

弱
弱

あかき
中助なり

弱
弱

あかき
のうたなり

弱
弱

あかき
あまの道なり

弱
弱

あかき
あまの道なり

弱

あかき
あまの道なり

食乃字にうらみ

沈
沈

あまの道なり

未
未

あまの道なり

棘

あまの道なり

又一物より自御を害すもいふ所の
悲業歟 ありまゝ ありまゝ

あけぬまのふしつゝいふこと清り

怒我 ありまゝ ありまゝ

年老 ありまゝ ありまゝ

日周 日さばり ありまゝ

古侍に日周と卒去るは清り

又と友のしむるは清り

細石 ありまゝ ありまゝ

瀉水 ありまゝ ありまゝ

連 ありまゝ ありまゝ

さうりやまのしむるは清り

皮苗 ありまゝ ありまゝ

天苗 ありまゝ ありまゝ

源氏に侍るは清り

侍目 ありまゝ ありまゝ

津比國の難波御所に於て一橋

年端 御所にて

玉物 御所にて

魂齋 御所にて

魂貴 御所にて

源氏に玉殿と云ふは

津洲地 御所にて

兼平 御所にて

ぬれ 御所にて

まうりおのりさけの事なりは

本衣 御所にて

采女擬 御所にて

水雲 御所にて

首の重きぶらりし

乃いりて

武將 御所にて

日本一の地獄をうらりては情流るるなり

大和哥 屋敷にた 山の家子よきなり

須目 ころろろ 山家老たき

以とふ家子

病的 かめき 日記のさし

あこ 玉の 同家女に情

あまのこころのうらみ けしき

玉 二いぬ 二いぬ

速良丹 ちんちん あまの娘の中へ

あまのこころのうらみ けしき

あまのこころのうらみ けしき

日下雲 ちんちん ちんちん

豊穰也 ちんちん 又いぬ

あまのこころのうらみ けしき

秋雲

らんとほくろくくわんしんり

玄曜

らふらわいしんり

まきうく

平木念り

家風

りあめ

あせあせ

苗草

志のまき

金巻あま

草

種物あまのまき

童くしんりあまのまき

志云

まらこ

あしあま

之瀬河

見つせ

しんりあま

後河

まらこ

まらこ

送廻

まらこ

あま

作

まらこ

あま

嶽

まらこ

あま

但 綾 纒 欄 漁 推 天 百
但 綾 纒 欄 漁 推 天 百

々ハ
け
子
か
ま
本
中
中

宮
た
ゆ
舟
山
地
ひ

皇

皇

天子

王

王

大

銀河

銀河

天

夕

夕

夕

之ヶ月分

之ヶ月分

野

野

野

水西鏡

いせうん

いせうん

沖陸

みう

大内命

島新橋

棚見云

たふり

あふり

天途

あふり

天途

海

あふり

あふり

あふり

暫

あふり

あふり

慰

あふり

あふり

勅切人

あふり

あふり

目遥

あふり

あふり

目路

あふり

あふり

桓

あふり

あふり

あふり

浦端

あふり

あふり

不羨

古

の

いよふあはれきりつらからしむるは

数

多

新

月

の

月

おしりてついでに

寫

す

す

いせりてついでに

有

り

る

古詩に昔おそく

有

り

る

又いよふあはれきりつらからしむるは

依

り

り

楯

も

も

柳

も

も

人兼る由志、らんんをとり白にたりし

成白句 有りたり 白にたりたり

五美人 流き人 白にたりたり

卯亥折 疾き人 白にたりたり

折由 白にたりたり

五遷言 白にたりたり

五言 白にたりたり

疑近 白にたりたり

若く相 石に巻るるきこり

石に巻るるきこり

目覚之種 白にたりたり

白にたりたり

歌 白にたりたり

五美人 白にたりたり

白にたりたり

野々原 白にたりたり

我皇 始の御代に於ては、
此の御代に於ては、
此の御代に於ては、
此の御代に於ては、

風祭 凡と志すべし

いすろく 涼氏を將之月廿二日に次
六ふらむをひらふふと此の御代に
らりひらりふとをくやうてれ
らるる御代にひらのくまの御代に
月己ららるる御代に

皇地 御代に於ては

言妙 山と御代に於ては

諸敵 山と御代に於ては

持恒 山と御代に於ては

哀邁 山と御代に於ては

向後 山と御代に於ては

又と 山と御代に於ては

天し女 山と御代に於ては

天武天皇御紀
 天皇御紀
 天皇御紀
 天皇御紀
 天皇御紀
 天皇御紀
 天皇御紀
 天皇御紀
 天皇御紀
 天皇御紀

田部

田部御紀
 田部御紀
 田部御紀
 田部御紀
 田部御紀
 田部御紀
 田部御紀
 田部御紀
 田部御紀
 田部御紀
 田部御紀
 田部御紀
 田部御紀
 田部御紀
 田部御紀
 田部御紀
 田部御紀
 田部御紀
 田部御紀
 田部御紀

高松

高松

高松

千の登 ちまふら
千の金 ちまふら
とくしをるる
古今年此金り

古詩にまき日一別價本をきし作り

泊舟 ちまふら
提念船店まき

系後 のまき
舟まきをまき

否舟 いふま
舟羽をのまき

ふいりしをきしをきしをきしをきし

てまきのまきのまきのまきのまきの

のまきのまきのまきのまきのまきの

いりす

稲花 いふら
凡のまきのまきの

糸山子 かり
人形をのまきの

まのまきのまきのまきのまきのまきの

鶴村子 かり
小まきのまきの

あまのまきのまきのまきのまきのまきの

儉花子 かり
舟まきのまきの

頭之也

あはれ

あはれ

あはれ

鈴籠

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

稚小枝

あはれ

あはれ

小枝

あはれ

あはれ

深

あはれ

あはれ

懐

あはれ

あはれ

半伏

あはれ

あはれ

凸土

あはれ

あはれ

あはれ

濱

あはれ

あはれ

つららるる... せむじ... 徳也

勲 功 徳也

試 免 度 命 命 命

位 男 存 命 命 命

ふらに... 命 命 命

鍾 筆 羽 翅 命 命 命

... 命 命 命

... 命 命 命

百 千 考 命 命 命

百 千 考 命 命 命

考 命 命 命

候 命 命 命

... 命 命 命

喚 子 考 命 命 命

... 命 命 命

中より猿掛申しつゝさるるあり

人々争ふ

まらぬれ立本と志の山沖に

車

人けり

小鳥おきき

龍軍

ふりま

天子の軍に就

よのまゝくつらぬ龍軍とくつらり

七無馬

ゆきぬり也

七無馬軍に就

よき女あつらひ依能越の徳とくま

こゝの日向急は約賢いふやま事あり

之龍端

ふりま

之龍端の事

源氏にむく日と友はくつらりこゝの徳り

如長

高き

高き女事あり

河長

ひき

ひきぬり

驛長

むら

核宿あり

古符驛長より設馬村家改むる

笑馬

けり

馬改むる時

いふこといふこといふこといふこと

遺唐 命此名 命此名

命此名 命此名 命此名

命此名 命此名 命此名

下細 命此名 命此名

兼和菊 命此名 命此名

考 命此名 命此名

命此名 命此名 命此名

右符考其案之美難與難

藻蟹 命此名 命此名

葛露 命此名 命此名

葛露 命此名 命此名

又所白 命此名 命此名

又所白 命此名 命此名

又所白 命此名 命此名

天不日 命此名 命此名

雜

いふなり

あつたふり

雜

あつたふり

あつたふり

あつたふり

雜

あつたふり

あつたふり

雜

あつたふり

あつたふり

あつたふり

雜

あつたふり

あつたふり

あつたふり

雜

あつたふり

あつたふり

あつたふり

雜

あつたふり

あつたふり

あつたふり

雜

あつたふり

あつたふり

あつたふり

あつたふり

雜

あつたふり

あつたふり

永権

ふふふ

ふふふ

舟

ふふふ

ふふふ

石

ふふふ

ふふふ

漢

ふふふ

ふふふ

日

ふふふ

ふふふ

漢

ふふふ

ふふふ

漢

ふふふ

ふふふ

漢

ふふふ

ふふふ

漢

ふふふ

ふふふ

漢

ふふふ

ふふふ

漢

ふふふ

ふふふ

漢

ふふふ

ふふふ

漢

ふふふ

ふふふ

漢

ふふふ

ふふふ

漢

ふふふ

ふふふ

細

ワ

ふんふん
細代寺

級照

志

岩

志
志
志

氣

志

志

志
志
志

志
志
志

志
志
志

湖

志

志

白蟬

志

志

志

志

志

志
志
志

志

志

志

志
志
志

志
志
志

額

志

志

河

志

志

水泡

こぼる

あはれあひま

水

みづ

うしろあま

水

みづ

あはれあひま

鱗

うろこ

うしろあま

晴

あはれ

あはれあひま

紫竹

むらさき

あはれあひま

物言

ものごと

あはれあひま

玉夢

たまゆめ

あはれあひま

玉田の玉夢をまはるる

以假

いかり

あはれあひま

翠鳥

あざな

あはれあひま

留言

とどめ

あはれあひま

持

もち

あはれあひま

菟

うさぎ

あはれあひま

あはれあひま

殺字 身入

よたぐ

あがこ

灯の字は...

清

志の

あまらり

的周

あけられ

あまは...

森

あがわ

あま...

疾素

あま...

あま...

初来

あま...

あま...

蛙蛉 蛙蜓

あま...

あま...

七の妻

あま...

あま...

あま...

あま...

七つ島ふ牛さつんて焼り

津儀

しん

兄弟おのり

夏

なつ

ふすま

靴

くつ

ふく

琴

ことば

ふく

海

うみ

ふく

新

あたら

ふく

元

もと

ふく

波

なみ

ふく

脚

あし

ふく

心

こころ

心

こころ

ふく

在

あ

ふく

求

もと

ふく

あきらめしんしん考れおこしんて
あきらめしんしん考れおこしんて
あきらめしんしん考れおこしんて

夜重露 毎々女玉 尺菱より

泣く之價宝珠程之め夜重露と云

楳 くらまら ちこそふく女玉

たつこしき楳と月事しからさく

とくふおりくらさくらとくふさく

こしまり

白野 ちくろ みの野のれん

家俵 ちかた ちあけらさく

和様 そらひ そめはら子

荒波山まひひらひみりま

早賦 ちかまき ちかまき

源氏にまふんちかまき

慶地 ちかひら ちかひら

ちかひらちかひらちかひら

遠割 ちかまき ちかまき

ちかまきちかまきちかまき

氣逆

けりき

馬のたし

胡漢

あまきり

たの字を

下待の露の雲の孤舟の

水相

ひかき

ふりよき

水相の久の相をいくりの

副

むく井

報を

新

ちり

多を

交

あし

人合

厚衣

あき

衣の

縣下

あき

長を

月

は

秋の

月とて

礎

い

亦と

酒

あ

浦の

今とて

あ

干得 消水 参一書 不校 野而 何近 灼泥 灼断

ひこく たりき 一ひひ 水きき 的りせ いまそ ぶれつこ 五いふ

志のひらきり 海字のまじり みるはまきり 下まじり 庭のまじり せりまじり くれまじり くらまじり

練村戸 石

練村戸 練村戸 練村戸

板のまじり 風のまじり 事のまじり

右和 古語

右和 古語 大湖之市六午項月存波心説

白籙

和歌云
ねほりて海のしんらん
うのしんらん
のしんらん

蘇我の初物中旬



仁平書、弘光筆、考也

110X
92
1